

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1173600238		
法人名	特定非営利活動法人 ひばりの里ネットワーク		
事業所名	グループホーム 麦倉ひばりの里		
所在地	埼玉県加須市麦倉2116番地2		
自己評価作成日	令和5年10月4日	評価結果市町村受理日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様が、自分の意欲や体調に合わせて家事活動に取り組み、行事などに参加して、出来ることはご自分で出来るように、環境を整えながら、安心して過ごして頂けるように支援をしています。また、医療機関とは利用者様の体調の変化の報告や受診・往診の依頼、他の医療機関での診療の結果の報告などを随時行い、連携の強化に努めています。ご家族あてに毎月、近況報告をお便りで、出来るだけ詳しくご本人様の様子を写真と共に記入し、必要に応じて電話連絡を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「認知症の方と共に生きる、共生社会を作る」の方針を柱に、家族、地域そして行政との連携を大切にした事業所運営がなされている。第二の家と思えるような環境づくりを目指し、入居者一人ひとりの意向を大切に、その人らしい生活が送れるよう支援が行われている。また、市内の地域密着型サービス事業所連絡会の立ち上げに従事され、地域と行政との窓口としての業務にも携わっている。
 ・運営推進会議については、対面集合での開催を再開し、参加者が少ないものの市担当者出席をいただくなど、運営にも活かされ、今後は参加者を増やせるよう議題や日程への配慮が検討されている。
 ・目標達成計画の達成状況については、令和4年度は厚労省通知を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策を取り上げ、周囲の環境を考慮した対策が行われたこと、全員の非常用持ち出し袋が完備されたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念には、「地域との融合、連携」が含まれ、地域密着型サービスの意義が含まれており、職員もそれを理解し、行事などを通して近隣の方々と接点をもつなどに努めています。現在は感染症流行の為、行事も行えていません。(内部のみで行っています。)	活動指針として法人理念が設けられ、各部門の管理者が考えた目標なども明確にされている。特に地域密着ということを重視し、オレンジカフェなどを通して地域との交流を図り、職員も方針を理解し、日常のケアで実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議は2か月に一回開催し、家族会の会長さん、町内会長さん、民生委員さん、市役所の高齢介護課や、地域包括支援センターの職員さんに参加して頂いて、交流を図っています。現在は感染症流行の為、書類での対応となっています。5月から再開しています。	オレンジカフェなどを通して地域とつながり、地域の方が関心を示され、事業所を訪ねて来られたケースも見られる。コロナが5類になったことで、日常のつきあいも再開され、ボランティアの来所や花を届けていただくなどの交流も図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人理事長は認知症サポーター研修の講師として市内で活動しています。また、併設の施設に、『オレンジカフェ』を行う『交流の家』という集会所的な施設もあり、地域貢献をしています。8月からオレンジカフェ再開しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からそれまでの期間の事業報告を行ない、その後、各参加者から意見を頂く、身体拘束適正化委員会も兼ねている為、権利擁護や身体拘束禁止について話し合いをしています。	運営推進会議は、これまでの文書方式から、集合対面での開催に変わり、市担当者も参加されている。身体拘束適正化委員会を同時に開催するなどの工夫も見られ、今後も出席者を増やすための議題や開催日時の検討がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上記、運営推進会議に担当の方が参加して下さって、報告や時に参考意見を頂いています。現在は感染症流行の為、書類での対応となりましたが、5月から再開しています。	市担当者とは、運営推進会議への参加、オレンジカフェへの協力、さらに市内の地域密着型事業所連絡会へも出席をいただいている。また、介護関係だけでなく、福祉課などとも連携を図り、サービスの向上に繋がられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の自由な外出に対応できるように、玄関の鍵は開けています。安全と自由のバランスを取りながら、より自由な場所であるように努めたいと思います。	「その人にとってこれはどうなのか」を常に考え、入居者の意思の尊重や無理強いをしないなどに特に注意が払われている。運営推進会議の場で身体拘束適正化委員会を開催し、外部にオープンにすることで、職員への意識付けも図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これまでも、年2回の権利擁護、身体拘束廃止研修を行ってきましたが、今年からは「虐待防止」もその研修と同時にを行い、また、推進会議にも取り上げ、スタッフ全員が虐待防止について改めて理解を深めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、利用者様の代弁をする、尊厳を守るということを研修等で理解しています。成年後見制度も利用している利用者様が2名おられ、その目的や内容についても理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、主に法人理事長がおこなっており、利用者様やご家族へは丁寧にご説明している。重要事項説明書も使い不安や疑問がないように説明をさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの変更時や面会時、また家族会等において、できるだけご家族様に意見を伺うようにしています。	家族からは様々な意見が出され、年に1回の家族会でも事業所設備の修理などの面からも要望などが出されている。また、入居者からは新聞のチラシを見て「〇〇が食べたい」などの申し出があり、できる限り、即対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤職員は、NPO法人の会員となっており、総会で意見を言える様になっています。また、管理者会議、スタッフ会議等で随時細かい意見を聞く様にしています。また、スタッフ会議で話し合った内容を議事録として残し、業務に活かしています。	スタッフ会議のみでなく、ラインを通して日常的に細やかに職員同士の相談や意見交換が行われている。管理者も職員からの個別相談や出勤体制のこと、職員同士の問題などの話を現場で聴き、アドバイスを送るなどの対応がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事会や管理者会議で、スタッフの評価についての方法を検討課題としています。また、代表者は法人内のキャリアアップ制度を事務局と共に作成し、職員皆が向上心をもって働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長はグループホーム協会の理事として、認識ある立場から全国的に研修を行なっている為、職員にもできるだけその研修に参加するように促している。その他、県内外での研修にも積極的に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長は、市内の地域密着型サービス事業所連絡会を作って、他事業所との連携、交流を積極的に行なっています。また、グループホーム協会の活動を通じて、交流の機会があり、サービスの質向上に繋がっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階については、慎重性が必要な為、法人理事長が家族との面談で十分に聞き取りをしているので、本人や家族の不安や要望については、丁寧に伺い、それをケアに反映させるよう、現場職員に申し送っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、相談の段階から理事長が家族や本人と面談をし、丁寧に信頼関係を築いている為、問題点や課題があった場合は、それを細かく記録して職員がケアに反映させられるように努めています。結果的に信頼関係の構築になっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービスについて、理解の薄いご家族様に対しては、特養とGHの違いや、ショートステイ・デイサービス・訪問介護サービスなどを併用することで、自宅での生活の延長ができる可能性のある事など、説明する事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意欲や体調にもよりますが、一緒に家事に取り組んだり、催し物を楽しんだりして過ごして頂けるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に毎月のお便りにて、ご利用者様の現在の様子を分かりやすい様に写真と共に文章にて連絡をしながら、病院受診の協力や、不足な物の補充のお願いなど、無理のない範囲で協力して頂けるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様が、ご本人を連れて外出するなど、ご家族様の協力のもと、行えている事もあります。また、家族や馴染みの関係の方が面会に来た場合には、気軽にご利用者と過ごせる環境づくりに努めている。コロナの為、面会制限有。	面会も少しずつ緩和され、ボランティアの訪問などもあり、昔ながらの遊びや食べ物作りなども行われている。職員も支援充実の為、アイデアを出し合い、馴染みの歌番組を流したりすることで、思い出を大切にできるよう取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然とお友達の関係になられると、お互いの食器を片づけたり、体調が悪いと個室にお見舞いに行かれたりしています。また、できるだけ相性がいい人同士が関係が保てるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	違う施設に移られる時は、色々な情報尾を提供させて頂いています。ご家族の関係性も協力し合い、途切れていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の様子を観察し、対話・入所前の生活習慣・生活履歴から職員で話し合いを持ち、ご本人の意欲・希望に添えるように努めています。	その人の個別の話題を中心にお聴きし、仕事や買い物に行った店などの話をきっかけに思いや意向を把握するよう取り組まれている。入居者が答えやすいように問いかけをし、好きなことや習慣などを通して本音も聴き出すよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人、ご家族から生活履歴を確認し、アセスメントシートに記載しています。これまでの暮らしの情報はGHで生活する上で必要なことの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の新しい可能性や、リスクについて、報告や記録にとるようにしています。新しく方針を取る場合は、申し送りなどで情報を共有するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画についてはご本人に希望をお聞きしたり、ご家族に改めて意見を、確認するようにしています。看とりに近づいて来られた際には、主治医や訪問看護師にも立ち会って頂き、今後について話し合っています。	入居者側の見地で作成され、具体的な表現に加えてニーズから目標、サービス内容に至るまで一貫性も見られる。作成表現にも気を配り、入居者自身の言葉を取り入れ、更に変更した部分を強調しわかりやすくするなどの工夫が図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の状況を記録した介護日誌、情報共有ノートを活用し、個人の体調や心身の変化について検討、必要時には介護計画を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診で家族が対応できない時など、状況に応じて対応を、家族と連絡を取り合いながら取り組んでいます。法人内のサービスや放課後デイなど利用者が活気を持てるような事業を活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関との連絡を密にしています。また、ボランティアが来て下さるので活用させてもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の変化を医師に報告し、受診や往診の必要性を相談しています。	常に協力医やかかりつけ医との情報共有を図り、アドバイスも受けながら健康管理に取り組まれている。受診後の内容は受診記録に記載され、重要なことは申し送りや全員へのラインで共有がなされ、適切な医療サービスが受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の変化を訪問看護師に報告し、相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、介護サマリを提出し、ご本人の日常の状態の報告しています。緊急時には、ご家族が到着までスタッフが付き添い、入退院時に看護師から様子を聞くなどしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りになる可能性については、医師や訪問看護師と相談しながら決定し、家族、医師、訪看、スタッフでカンファレンスを行なっています。	重度化が進む段階ごとに、家族、医師、訪問看護師、職員間での会議を開催し、全体での情報確認が行われている。看取りも実施され、看取り後は「しのぶ会」を開き、在りし日の姿を写真でスクリーンに映すなどの取り組みも実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	十分な感染症対策を行い、法人内研修を開催してスタッフに指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練の実施の他に必要時の訓練(水害避難)を行なっています。	周囲の環境から水害の可能性を第一に捉え、危険性を考慮し早めの行動を心がけられている。発電機、備蓄、入居者各自の防災リュックの購入、同法人施設との協力体制など、具体的な防災対策が講じられている。	落雷なども経験し、BCP対策に則った対応がなされています。災害発生時に初期対応の段階から職員が確実に動き、対策が完全に実行できるよう、訓練を繰り返されることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。親しみとanelいしさが、あいまいにならないようにしている。	入居者一人ひとりに合わせたケア、羞恥心への配慮、敬語で話すなど人格を尊重した対応が行われている。職員間で入居者のことを話す際にも、他の人にわからないよう事務所で行うなど、プライバシーの確保にも気配りがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を促す為に、食事の好み、着る服の選択、催し物に参加するかなど、こちらから提示する事柄をできるだけ多くするように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食べる時間は、ご本人の体調などに合わせながら、その人のリズムで過ごされるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服はできるだけ、自分で選んでいただき、ご自分らしさを表出できるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の意欲や体調を見ながら、できるだけ一緒に食事づくりや片付けに取り組んでいただいています。また、何を食べたいかを聞いてメニューにも反映しています。	カロリーの維持に注意を払い、嚥下機能が落ちた入居者にはとろみ食やソフト食が提供されている。野菜ジュースや乳製品、さらにはサンドイッチなども取り入れられ、入居者も盛り付けなどを手伝い、食べることの楽しみを味わっていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調を落とされた方は、特に水分量や食事が詳細に記録できる食事摂取量チェック表を使用し、共有し、ている。その方に合わせて、食事や水分の摂取をして頂いています。ソフト食の方は、摂取カロリーを記録し、摂取量の少ない方は栄養補助食品を処方しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の助言を聞いて、うがいや入れ歯の洗浄など、食後や就寝前に声をかけたり、介助をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用は極力先延ばしにして、つかまり立ちが出来れば、車椅子の方でもトイレ誘導を行うなど、排泄の自立支援に努めている。	立位が取れればトイレでの排泄を基本に、夜間でも個別にトイレ介助が行われている。介助時は声をかけながら「丁寧に安全に素早く」時間をかけないよう取り組まれ、羞恥心やプライドにも配慮した対応に心がけられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の悪影響については、スタッフに説明を行ない、食物繊維の多い食材の摂取に努めている。また、定期的にヤクルトやヨーグルトを購入し、飲んでもらうことによって、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴をする際に、ご本人にお誘いの言葉を掛け、気分良く入って頂けるよう努めている。日時や時間はこちらで一方的には決めず、ご本人の意思、体調等に配慮し、対応している。	入居者の意思を尊重し、回数もこだわらずに支援されている。自立の入居者には外から安全確認をし、個浴を基本に、入居者の希望でシャワー浴にも応えられ、入浴中は健康状態のチェックも行い、入浴剤や季節湯なども楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ウトウトされている時は、お昼寝にお誘いしています。利用者様によってはベッドではなく、お布団で休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳に処方線貼ってあります。薬の効能、使用量等が確認できるようになっている。スタッフはそれを共有し服薬の支援と症状の変化野確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「家事はずっとしてきたんだから」と率先して家事に参加される方、「好きじゃなかった」とのんびりされる方、それぞれに過ごされている。また、野菜の収穫、花見、陶芸教室の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との特別な外出は、ご家族様に協力をお願いします。また、お花見など、季節のお出掛けや毎日の散歩はできる限り行えるよう努めている。	職員が工夫して支援に取り組まれ、散歩や犬の世話、中庭でお茶をするなど外に出る機会を設けられている。また、近隣の福祉高校が企画する「模擬デイサービス」にも出かけられ、高校生との触れ合いを楽しまれている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額又、貴重品はご家族から事務所の金庫に預かっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族の了解のもとに手紙やハガキは個人に来た時、個人に届けて、スタッフがサポートします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに季節に合った装飾を行ったり、思い出の写真や利用者様の作品を飾ってる。	入居者は共用空間に集まるが多く、入居者を取り巻く環境への配慮を大切にされ、清潔感、安心感、生活感が感じられる環境づくりが行われている。各所にソファが置かれ、差し込む日の光を浴びながら自由な生活を送られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が過ごしやすいように、安全を配慮しながら、本人の希望を伺い、対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が慣れ親しんだ家具等を持ち込み、心地良く過ごすことができるように工夫しています。	入居者のこれまでの生活に配慮された居室づくりへの支援がなされ、使い慣れた家具のほか、陶芸教室で作った自分の作品などが飾られている。落ち着きある畳敷きの部屋もあり、それぞれの個性を生かした居室で居心地よく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室が認識しやすい様にプレートを設置し、本人が戸惑いなく、生活できる環境づくりを行っている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム 麦倉ひばりの里

目標達成計画

作成日: 令和6年1月17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	川の近くに施設がある為、水害事故が起こりやすくなっている。訓練の参加に偏りがある為、すべての職員が対応できるか不安である。	水害時にスタッフ誰もが迅速な対応ができ、スタッフ・利用者様全員が無事に指定避難場所に避難する事ができるようになる。	年2回の水害避難は継続する。 毎回、同じ職員が被らないように年間ですべての職員が参加できるようにする。 防災リュックの備品についても全職員が把握できるようにする。 BCP対策も明確化し、すべての職員が日頃から意識できるようにする。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。